

2020年4月23日

道道鷹栖東鷹栖比敷設工事に対する要望書

比布町長 殿

突哨山運営協議会
会長 出羽 寛

これまで工事予定路線の視察や3回に渡るワークショップにおいて様々な情報提供や協議の場を設けていただいたことに感謝申し上げます。

さて、先日ご報告いただきました「道道鷹栖東鷹栖比布線工事に係る報告書」について、4月13日に開催された突哨山運営協議会において協議をいたしました。その結果を以下にまとめさせていただきます。

現町道の未使用区間の植生回復について

道道敷設に伴う工事区間の環境の変化をできるだけ最小限にとどめることが重要と考えます。突哨山を後背地からできるだけ分断させないよう、開放区間をできるだけ少なくし植生の連続性を図ることが大切です。道道移管後も町道の一部利用が必要と聞いていますからその区間を除き、現町道のアスファルトを破砕し覆土を行い植生の回復を待つ手法がよいと思います。現道の道路幅が狭く路肩まで樹林が迫っていますので、植林は不要と考えます。カタクリ等希少植物の移植も遠方で行わず、現地の近くでこの場を利用すれば回復の上でも経済上も有利です。覆土後数年間はササ等の侵入をコントロールする植生管理が必要かと思えます。

周辺動物への配慮について

報告書でも触れられておりましたが、工事予定区間にはニホンザリガニやエゾサンショウウオ等の希少動物をはじめ、様々な生物の生息が確認されております。道道敷設によりこれらの生物への影響を最小限に留めるため、横断水路だけでなく、道路沿いの側溝にもエゾサンショウウオや野ネズミ類、トガリネズミ類等の小動物が脱出できる斜路付きトラフの設置をおこなうべきと考えます。横断水路については断面を四角形にするとありますが、長期にわたって土

砂による閉塞を防ぎ、水生動物の往来を確保できるよう、具体的な大きさや維持管理についてお示し下さい。また神社でのノスリの営巣の可能性（工事道路と過去の営巣場所の距離は約40m）があることから、工事期間は営巣時期を外すこと。順応的な保全はカタクリだけでなく、ノスリや他の小動物についても同様に考え、凡その目標を設定しておくことが必要と考えます。

工事予定地周辺は突哨山からその後背の鬼斗牛山（三角山）さらには広大な道北の山地へと続き、そこに住む野生動物の移動や植物の分布にとって重要な緩衝地帯（バッファゾーン）の役割を果たしています。これまで多くの人々が、その貴重な自然環境を守るために尽力してきた歴史があり、私達共通の財産と言えます。この貴重な財産を次の世代に引き継いでいくためには調査や検討だけで終わることなく、結果として利便性と環境保護を兼ね備えたものにしなければなりません。工事に関する様々な制約や条件があるとは思いますが、関係する各機関の皆さまには深いご理解をお願いするとともに、今後とも情報提供や意見交換などにご協力下さいますようお願い申し上げます。